

神戸に生れた英語遊戯會について

神戸幼稚園の あ る 保 姆

近頃幼児教育の問題に就いて、色々考へられたり、研究されたり、またやかましく云はれたり致して居りますが、其の中でも、つい最近、この幼稚園時代の幼児に英語を教へてどんなものであらうか、果してよいものであらうか、悪いものであらうか、効果のあるものか、無いものかと云ふ問題が出来たのも其の一つでございます。そして、その可否については色々の議論がございますが、實驗や調査を基礎にしたものは、極めて稀で、比較的獨斷的のものが多く様に考へられますが、然し又或る心理學の實驗にたづさはつておいでになる學者先生の御説では、此の時代に、語學の練習をするといふことが、最も大切であつて、又有効であるといふことが、心理學上實驗の結果明であると申されております。

折も折、私共の處では、つい此の頃熱心な會員達の努力に依りまして、愛兒研究會と云ふ會が組織されました、其の會の第一の事業として、試みられた

ものが問題の、幼児に英語を教へると云ふ事でございます。この英語のクラスの名を特に、英語遊戯會と命名致しました。それは相手が幼児でございますから、これを覚えさせるに謂ゆる教授の方法を用ひ度くない、どこまでも、幼稚園式の方法でやつて見たい。即ち、其の言葉は、先づ、幼児の日常生活のうちからとつて、これが知らず知らずの中に耳に聞き馴れ、言葉に發せられる様にと云ふのでございます。そして、其の方法は、全然遊戯的にして、興味を起し倦まずして覺える様にと、希望致しました。そこで、これに適當な先生の物色に取りかゝりましたが、外國人の多い此の神戸市でも、なか／＼私共の要求に叶つた人を見出すことが、むづかしいのは、流石の望月園長の顔にも、苦心の色が見えて参りました。勿論、此の事業は、幼稚園の仕事とは、何等の關係はございませんけれども、この特殊の會の生れるについて、初めから、考へたり奔走したり

して、ほとんど、獨りで凡ての勞を取られました。或る人は、申されました。「あれ程多い外國人の中で、幼兒に英語を教へる位の人は、幾らでもあるでせう」。けれども、この考へが、私共の先生を得ようとして居る考へど、全然意味も目的も違つてゐるのでございます。かう申せば、幼兒を扱つておいでになる方々には、何にも克く御了解と御察しが出来ることゝ存じます。此の時代に、最も發達の著しい發音、しかも、それを練習するに、最も好適な時期に、苦心なしに、覺えるといふことは、實驗の結果から申しましても、慥かな根據のある處でございませうけれども、其の方法の如何に依りましたは、しないより寧ろわるい結果になることを恐れるのでございませう。色々と苦心慘澹の末、Mrs. Leppard、といふ方に、お願いいたすことが出来ましたので、大變よろこびました。

そこで、一寸この先生について申し上げて置きたいと存じますが、此の方は、米國の人で日本へ來られてから、二十年餘りにもなりますから、日本語は、餘程流暢なもので、方言などのない極めて、上品な言葉で、普通の日本人は裸足で逃げねばならない位

でございませう。然も、幼兒には、永い間御經驗があまりでございませう。これが私共の希望の第一條件に叶つたわけでございませう。またそのマンナーは、極理想的に出來てゐられます。日本のよい點と、米國のよい點を合せて、而も互の長所をもつて、互の缺點を補ひあつた様な所も亦私共の希望の第二の條件に叩つたわけでございませう。

英語のクラスに加入した子供達

土地柄としても、さなきだに必要を感じてゐる處へ、親達の頭も、自分達の子供については餘程忠實に考へる様になりつゝある今日の事ゆゑ、かうした催しを大變よろこびました。

親達の多くは、「自分達がいゝ加減の年齢に成つて、外國語を教はつて、非常に苦心して困つた。そして、困つた結果もやはり充分に出來ないために、社交に、實業に、不便を感じて殘念であるから、子供には、さうした難儀を少しでも、除いてやりたい」と云ふ有がたい親心は、なか／＼強く深いもので、希望者はなか／＼多くございました。

然し私共の方でも、一時の氣まぐれや、物好きに

始めたことをごさいますから、さうした人々の希望を満すといふこと丈で満足は出来ません。そこで、幼児を身體と知力とを、標準にして、選擇致しました。また、加入しても直ぐに止める様な者も、除きまして其の数は、丁度六十人ほどございました。そしてこの中には、小學校の一年生位の子供も交つて居ります。

時間 一週に二度 火曜日と金曜日

方法に就いて

何分子供の数が多うございますから、便宜上男、女に分けました。(但し雨降りなどで、人數の少ない時は一所にいたします)。

マーチにつれて行進して圓形をつくりますと、先生は、一人一人順々に手をとつて、How do you do? と、いつて、子供の顔をのぞかれます。子供達は、顔をあげてキョロキョロと、させて先生の口のあたり筋肉の動き方、舌の動き方、齒の出方などをなかなか大人以上鋭敏に、細密に觀察いたして居ります。て、自分も同じ言葉を、無意識に真似ております。口をつぐんで、だまつて目丈を、キョロキョロしてゐ

るものもございしますが、先生はなかく、巧妙な技量で、真似をさせます。さうして、全部一巡すると、How do you do? と云ふことは、

「今日は」と、いふことをごさいますよ。さあ皆さんで、一處に申しませう。こん度は、先生は聞いて居りますから、御自分達だけで、いつてごらん下さい等といつて四度も五度も繰り返へして練習いたします。一番はじめは、意味が分らない爲めに、子供自身何の興味も持つて居ないことが、よく分りますが、意味を聞いて後は、如何にも、ほこらしげに力をつけて申します。お天氣のいゝ日でございますたら、How do you do? が濟むと、It is a fine day. を申します。これも幾度となく、先生と代る／＼發音致します。寒い日ならば It is cold to-day. と、いつた様な言葉の練習をいたします。先生は、次に片手を前に差出して、one hand また一方の手を差出して、two hands と、申されますとして、其の手を打ちながら、I clap my hands 上に上げてきた、I clap my hands 後にして I clap my hands と、幾度も、位置を變へて申されますと、子供は一心不亂に、同じ動作をしながら、ついて申します。一つの言葉を幾度も

繰り返してゐても、變化があるので、子供は、退屈の色は、見えません。而も動作でもつて、言葉の意味を發音いたしますから理解も早く忘れることは、比較的ない様でございます。かうした言葉の練習が終ると、樂器にあはせて Here we go walking, Walking here we go, walking into the ring を、云ひながら極めて、リズミカルな步調で、輪の中心に入つて、參ります、この度は Here we go walking, walking, walking, here we go walking out of the ring を、いひながらもこの通りに返ります。かうして running の時は走り hopping の時はとび、Crawling の時は、はつて、凡て樂器に合はせて歌ひつゝ、動作を致します。これを又非常に子供がよろこんで、致します。かうした遊戲の中に、自然的に、外國語を聞きなると、いふことは外國人の家庭教師を聘して個人教授を受ける時でも、到底出來得ないことだと云ふことを、つくづく感じました。また同時に、子供達の覺えのいゝことにも驚きました。側にある大人よりも早く覺えて、また、次の時には大人の忘れてゐる言葉を思ひ出すのでございます。然し、初めの二三度は、一向分らなさうでございま

した。従つて申すことも自信のない言ひ方が、見えてゐました。四度目位の時から、餘程變つて參りました。先生も驚きと、よろこびに満たされて、よるこんでおいでになります。日もまだ淺うございますけれども、言葉も克く覺え歌も克く歌はれる様になつて居ります。而も、私共の様な大人では、なか／＼うまく言へない發音例へば hammer, soldier, do, standing をいつた言葉の發音は、妙に先生そつくりの所があつて、實に聞き心地がいゝ様に思はれます。子供が、今現在發達しつゝあるこの發音を、耳に入つたまゝを云ひ得る仕合はせを感せずにはゐられないのでございます。女學校や、中學校の時期に成つて、言葉の發達の止まつた時分から始めて苦心した自分達と今日の子供達とを思ひ合せて、時代てふ環境が如何に人生に影響を及ぼすものかといふことをしみ／＼と、感じました。

ありのまゝを書きまして、尙皆様の御考へや御教示をあふぎたいと存じます。